

目標達成計画

作成日: 平成28年 3月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けに取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	ケアプラン作成はプロセスを踏み作成され、職員がみなで共有して活用できる取り組みに期待したい。	職員全員がケアプラン作成のプロセスを把握する。 カンファレンスの場で職員皆で話し合い、モニタリング・ケアプラン原案作成等を行う	職員全員がケアプラン(本人・家族の意向確認とニーズの把握、モニタリングを踏まえた目標とサービス内容の見直し等)を理解する。 カンファレンスにて職員皆でモニタリングやケアプラン原案作成を行う 日常の支援等において気付いた点など記録、情報共有しケアプラン原案作成に繋げていく	6ヶ月
2	36	入居者一人ひとり(個人)がもつ尊厳とはを理解したうえで、プライバシーへの配慮を職員が実践できることに期待したい。	尊厳・プライバシー・人格の尊重と、その人個人・個別であることを理解し、コミュニケーション・食事・排泄・入浴等、それぞれに合った支援が行えるよう共通認識し実践する	会話や生活歴等から、各入居者様の思考・嗜好等を把握し、職員全員で共通認識する 排泄:羞恥心に配慮し共感的態度で接する 入浴:それぞれの入浴方法についてアセスメントし個別に対応できるようにする 居住環境:好みを取り入れる	6ヶ月
3	40	生活のなかで楽しみな食事の時間とはを職員と話し合い、ステップした実践の取り組みに期待したい。	入居者様全員が楽しめるよう食事の支援を行う	その人の嗜好、食事の楽しみ方など個別にアセスメントを行いきちんと把握、支援に繋げていく 個別な外食支援を行う その時期ならではの旬な料理を入居者様と一緒に考え調理するなど、皆で参加し作る喜びも感じて頂く	6ヶ月
4	6	利用者一人ひとりにとっての「拘束とは」を職員全員で共通認識できるよう、話し合い、ケアの実践に期待したい。	職員全員が『拘束』について、もう一度理解を深め、ケアの実践に繋げる	『拘束』について再度勉強会を開催する 各入居者一人ひとりについて制限や抑制していることが無いかを話し合う やむを得ず拘束となる場合は管理者参加にて緊急的に話し合い、職員統一した支援方法を決め、その旨は担当者会議録に残す	3ヶ月
5	35	事業所が避難場所になる想定もあることから、近隣の協力者に加わってもらい、更なる災害対策の取り組みに期待したい。	地区の消防団との連携を深め、災害などによる利用者避難への協力はもとより、いざというときには地域住民の避難場所としても機能できるよう、地域に根付いた取り組みを行う。	施設内状況に関して地区消防団が理解できるよう見学会などを行い、実際の協力体制について具体的に話し合う。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。